

第 15 回 岡山医療フォーラム「ウイルスと暮らし」

ご挨拶

公益財団法人岡山医学振興会
代表理事 難波 正義

当財団は、2001 年に岡山大学医学部内に設立され、その後、法律の改正により、2011 年に公益財団法人となっています。当財団の活動の一環として、毎年このような市民講座を開催しています。皆様のお役に立てておりますでしょうか。忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

その他の財団の活動として、岡山下の医療に関する教育、研究、学会、研究会、医療関係の人の海外派遣、海外からの招請、地域連携活動、などを助成しています。そして、これらの活動は、岡山大学医学部関係者から毎年いただく寄付で行っています。

今後とも、市民の皆様にもご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

『ウイルスのしくみ』

岡山大学医歯薬学総合研究科病原ウイルス学教授
山田雅夫

ウイルスによって起こるインフルエンザ、はしか、水ぼうそう、おたふくかぜ、昨今では、ノロ、デング、ジカ熱などは、比較的身近にマスコミを賑わし、日常の話題になるかもしれませんが、一歩ふみこんで、ウイルスとは何かとか、ウイルスがどんなふうにして病気を起こすかとか、ウイルスによっておこる病気をどうやって防ぐかということになると、ちょっと敷居が高いと感じる方も多いかもしれません。今回は、そのようなところを分かりやすくお話しして、お二人の先生の、やや詳しいお話につなげたいと思います。

とくに、まずは、「敵を知る」：ウイルスの病気をどうやって見つけるのか、「味方を鼓舞する」：ウイルスの病気の予防、「敵を撃退する」：ウイルスに効く薬の話を交えて、最後は見方を少し変えて、「敵味方、仲良く喧嘩する?!」：ヘルペスウイルスの話題など、皆様と一緒に考えてみたいとおもいます。

ウイルスから県民をまもる

岡山県環境保健センター所長
岸本寿男

ウイルスが引き起こす感染症には、かかってもほとんど症状が出なかったり、軽くすむものから、重症になり、場合によっては死に到るものもあります。また最近では、全く新しいウイルスや、国内に存在しなかったウイルスによる感染症が、交通網の発達によって突然県内で発生する可能性も出てきています。そこで今回は、まず岡山県内で発生している主なウイルス感染症について、我々の感染症情報センターが、県内の保健所等から報告を受け毎週まとめて公表しています疫学情報から現状を紹介します。次にその中から私たちの健康や暮らしにとって特に脅威となり得るものについて解説します。今の時期に多くの患者がみられるノロウイルスと、マダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、一昨年に 70 年ぶりに国内発生が見られた蚊が媒介するデング熱等は、大きな社会的問題ともなっており、いずれも県内発生があることから、少し詳しく情報提供をして、対応策をお話しします。

インフルエンザのはなし

岡山労災病院 院長 岡山大学名誉教授
森島恒雄

インフルエンザは、時に大流行し、社会に大きな影響を与えます。ウイルスは、A 型、B 型、C 型に分かれ、病原性から A 型と B 型が重要です。特に A 型は変異しやすいため、時に「新型インフルエンザのパンデミック（大流行）」を起こします。直近では 2009 年に AH1N1pdm ウイルスによるパンデミックが起き、世界中で多くの死亡者が出ました。

インフルエンザの大きな特徴は、高熱と重い合併症です。小児では痙れん、脳症など多くの重篤な合併症が起きます。一方、成人特に高齢者ではインフルエンザ罹患中の細菌感染により、肺炎が重くなり、死に至るケースもあります。また、慢性肺疾患や循環器疾患など基礎疾患のある人のインフルエンザによる死亡率は、健常人の数十倍に達します。細菌性肺炎の原因菌として最も多い肺炎球菌に対して、有効なワクチンがあり、定期接種となっています。重症化予防のためにインフルエンザワクチンだけでなく肺炎球菌ワクチンもお奨めします。